リレーション

リレーションとは

「安心して自分の本音を語ることができる信頼関係」
「人と人とのうち解けた良好な関係」のことです。
すべての人間関係のスタートです。

○ 相手との良好な関係のきっかけをつくり、次第に心理的距離を近づけていくことが必要です。
○ こちらが心を開かないと相手も心を開いてくれません。
○ 急に近づくと心理的抵抗（防衛機制）が働きます。
○ 教師の自己開示がキーポイントです。

1 学級づくりの進め方

★リレーションを見る！
「協働活動に参加することができているか」

▼リーレーションがない子どもの４タイプ
① 不適応傾向で殻に閉じこもっている
② おどおどして孤立傾向にある
③ 自己中心的で周りから浮いている
④ 周りの子どもから排斥されている

◎リレーションがある子どもの４タイプ
① 教師とだけかかわれている
② 周りの子どもに同調してかかわっている
③ 小グループ内のかかわりに閉じている
④ 広くみんなとかかわれている

★リレーションがあると、みんなが楽しくなる
★リレーションがあると、学級の居心地がよい
・学級内にリレーションが高いと休み時間、給食の時間など、学級生活全般に活気が出てきます。
・子どもたちは「この状態を守りたい！」と強く思い、自然とルールも守られるようになります。
・学級のルールが定着すると、無駄なトラブルが減り、集団としてスムーズに活動ができるようになります。このようにルールとリレーションはお互いに支え合っている関係です。

2 リレーションづくりの流れ

場面例と実践のポイント

授業時間にトイレに隠れている子どもを見つけた。ふだんはしっかりした子どもです。どうやってトイレから出させますか。

① 相手の身になる
・「よかった、ここにいたんだ」、「探したよ」、「心配していたよ」など、おだやかな口調と表情で声をかけながら、ゆっくり近づいて心的な距離を縮めます。

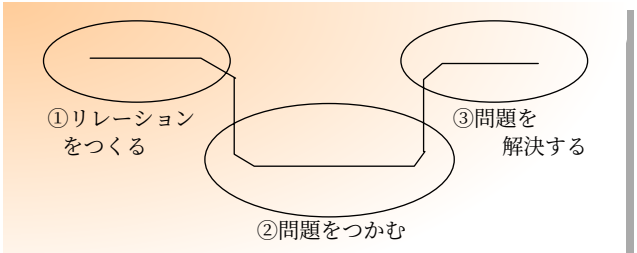
② 肯定的な働きかけ
－リレーションをつくる方法－
話しかける、近寄る、触る、見守るなど、言語（バーバール）・非言語（ノンバーバル）に及ぶ方法がある。
・「だいじょうぶ。心配しなくていいよ」などと話しかけ」やさしく肩や腕、手などに触れる
・時にはユーモアを交えて「そんなに居心地のいいところなの」と言いながら、教師もトイレの中に入りながら子どもの隣に立つ。

③言行一致
・「何があったのか話してほしいんだけど、どうかな」、「どうしてここにいるのか教えてくれないかな」など本気で理解したい気持ちを言葉や表情で伝える。

このように、教師と子どものリレーションができて「この先、先生なら自分のことをわかってくれる」と信頼が得られたなら、不安と緊張は緩和され、コミュニケーションが始まる。

3 コミュニケーションの流れ

コミュニケーションの流れは、コーヒーカップ方式という３段階が基本です。
① 相手の間に信頼関係をつくる
↓
② 何が問題なのかを明らかにする
↓
③ 今後の対応策を共に検討する流れをつくる



コーヒーカップ方式

▼△ △▼

【参考文献】 河村茂雄著『ｓｋｉｌｌＵＰ集団を育てる学級づくり１２か月』，図書文化，2007
國分康孝・國分久子監修『教師のコミュニケーション辞典』，図書文化，2007